

第712回 日本小児科学会東京都地方会講話会 プログラム

日 時： 2026年2月14日(土) 午後2時00分

開催会場： アットビジネスセンター八重洲 501号室

*講話会プログラムの郵送はいたしませんので、各自ダウンロードいただきますようお願いいたします。

参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備 考
1,000 円	専門医共通講習（医療安全講習会） 1 単位（ii 貼付用） 学術集会参加単位（iv-B 貼付用）	*単位を取得するためには教育講演 全ての聴講が必要（60 分）



【会場アクセス】

■ JR 東京駅（八重洲口）より徒歩約 10 分

■ 日比谷線 八丁堀駅より徒歩 2 分

※日比谷線八丁堀駅（A5 出口）

アットビジネスセンター八重洲 501 号室

東京都中央区八丁堀 1-9-8 八重洲通ハタビル 5・6 階

※建物の外観：ガラスカーテンウォール

※看板表記：ABC conference room

【東京都地方会】

会 長：水野 克己（昭和医科大学医学部小児科主任教授）

主幹校：昭和医科大学医学部小児科 担当：阿部 祥英

連絡先：jpestokyo-office@umin.ac.jp

※講話会中の緊急のご連絡は会場 03-6627-2151 まで

東京都地方会 HP：<https://jpeds-tokyo.com/>



第 712 回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内厳守のこと)

《プログラム係 順天堂大学医学部小児科学講座 東海林 宏道》

一般演題 (1) 14:00 – 14:40 座長 仲川 真由 (順天堂大学医学部附属順天堂医院 小児科・思春期科)

1) 新生児の化膿性筋炎・筋膿瘍の 1 例

○鈴木 彩恵、野村 賢太郎、大竹 由起、大久保 結子、森久保 美保、木内 善太郎、保崎 明、
吉野 浩、成田 雅美

(杏林大学医学部付属病院 小児科)

日齢 14 の女児。発熱 2 日目に尿路感染症の疑いで入院した。入院 2 日目に右膝の発赤、腫脹を認め、右下肢の動きが乏しく、MRI で右大腿筋の化膿性筋炎および筋層内膿瘍と診断した。血液培養および穿刺による膿培養でメチシリン感受性黄色ブドウ球菌を検出し、抗菌薬を静注 3 週間、内服 3 週間投与し後遺症なく治癒した。新生児の化膿性筋炎、筋膿瘍はまれで、外傷や基礎疾患がなく発症することがあり注意が必要である。

2) 前部尿道憩室に起因する尿路感染で敗血症性ショックを呈した 1 新生児例

○三崎 優里^{1) 2)}、八尋 光晴²⁾、柿原 知²⁾、住田 桃子²⁾、福岡 湧介²⁾、横川 英之²⁾、森田 香織²⁾
高澤 慎也²⁾、藤代 準²⁾

(¹⁾ 東京大学医学部附属病院 総合研修センター、²⁾ 同 小児外科)

日齢 28 の男児。発熱と哺乳不良を主訴に前医を受診し、尿路感染症による敗血症性ショックと診断された。集中治療目的に当院に転院し、超音波で両側水腎、水尿管、右腎膿瘍を認め、排尿時膀胱尿道造影で膀胱尿管逆流と前部尿道憩室が疑われた。尿路感染症治療後、膀胱鏡下尿道弁切開術を施行した。新生児・乳児期の尿路感染症では下部尿路閉塞を鑑別に挙げ、尿線異常の有無などの詳細な問診が診断において重要と考えられた。

3) 川崎病に侵襲性肺炎球菌菌血症を併発した 1 例

○黒田 唯夏^{1) 2)}、中尾 寛¹⁾、伊東 藍¹⁾、益田 博司¹⁾、窪田 満¹⁾、庄司 健介^{2) 3)}

(¹⁾ 国立成育医療研究センター 総合診療部、²⁾ 同 教育研修センター、³⁾ 同 感染症科)

1 歳男児。入院前日に肺炎を疑われ、当院救急外来にて抗菌薬が開始された。入院当日 (発熱 9 日目)、発疹、四肢末端の紅斑、口唇の紅潮を認め、不全型川崎病の診断で免疫グロブリン療法とアスピリン内服を開始した。抗菌薬投与前の血液培養で肺炎球菌が検出され、肺炎に伴い菌血症を併発した可能性が考えられた。抗菌薬治療を継続したところ経過は良好で、冠動脈の拡張を認めなかった。文献的考察を加えて報告する。

4) 経鼻弱毒生インフルエンザワクチン接種後に IgA 血管炎を発症した 1 例

○藤田 由見、坂口 晴英、新村 南、角皆 季樹、平野 大志、大石 公彦

(東京慈恵会医科大学 小児科学講座)

6 歳男児。初回経鼻弱毒生インフルエンザワクチン (LAIV) 接種 5 日後に腹痛が出現し、小腸 - 小腸型の腸重積と診断された。その後、下肢の触知可能な紫斑と足関節痛が出現し、IgA 血管炎と診断した。IgA 血管炎は先行感染を中心に、HLA-DRB1 を含む遺伝的素因や薬剤、予防接種など複数因子と宿主要因が関与する多因子性疾患とされるが、LAIV 後発症の報告はなく、本症例を示唆に富む症例として報告する。

5) 乳児てんかん性スパズム症候群に対する ACTH 療法後に生じた侵襲性細菌感染症の 1 例

○高田 善雄、絹巻 暁子、神田 祥一郎、梶保 祐子、田中 裕之、滝澤 慶一、中川 万理恵、
高崎 晃、張田 豊、加藤 元博

(東京大学医学部附属病院 小児科)

6 か月男児。生後 4 か月時に乳児てんかん性スパズム症候群 (IESS) を発症し、ACTH 療法を 14 日間施行した。直後から発熱および左眼周囲の腫脹を認め、*Staphylococcus aureus* (MSSA) 菌血症が判明した。精査で頭蓋底骨髓炎、脳膿瘍、肺塞栓および多発膿瘍を認め、計 8 週間の抗菌薬治療を要した。ACTH 療法後に発熱を認めた場合には、侵襲性感染症も念頭に置いた慎重な診療が重要である。

○指定発言 米田 立 (東京大学医学部附属病院 感染制御部)

6) 外傷歴のない椎骨動脈解離の 1 幼児例

○高野 言深¹⁾、水野 泰昭²⁾、小岩 征史²⁾、野崎 翔太郎²⁾、小川 恵梨²⁾、富田 健太郎²⁾、
鳴海 覚志²⁾

(¹⁾ 慶應義塾大学病院 卒後臨床研修センター、²⁾ 同 小児科)

5 歳男児。繰り返す嘔吐と傾眠のため受診した。入院後、構音障害、失調、測定障害、左不全麻痺が出現し、頭部画像検査で左椎骨動脈解離による小脳梗塞、中脳梗塞と診断した。発症 2 日前にサッカーをしたが、ヘディングや激しい身体的接触はなかった。小児の椎骨動脈解離は、外傷と認識されない程度の軽微な機械的ストレスが原因になることがある。丁寧な病歴聴取を心がけるとともに、外傷歴がなくても鑑別から除外すべきではない。

7) 心理社会的背景により外傷後の消化器症状が遷延した 1 例

○須賀 月花¹⁾、中村 明雄²⁾、永田 万純²⁾、大石 賢司²⁾、三森 愛美²⁾、新井 喜康²⁾、杉山 洋平²⁾、
中野 聡²⁾、仲川 真由²⁾、稲毛 英介²⁾、中原 絵理²⁾、神保 圭佑²⁾、安部 信平²⁾、鈴木 光幸²⁾、
田中 恭子²⁾、東海林 宏道²⁾

(¹⁾ 順天堂大学医学部附属練馬病院 臨床研修センター、²⁾ 順天堂大学医学部附属順天堂医院 小児科・思春期科)

10 歳男児。打撲後の嘔吐、腹痛を主訴に紹介された。診察所見と検査では器質的異常を認めなかった。家族背景の聴取から日常的な虐待が明らかになり、心理社会的要因による身体化症状の診断で入院した。心理教育と福祉機関を含めた支援体制を構築し、退院後はかかりつけ医に情報提供するなど連携をとった。外傷後の身体症状では器質的評価に加え、Bio-Psycho-Social な視点による包括的アセスメントが重要である。

8) 神経性やせ症の経過中に急性膵炎を発症した 1 例

○古田 凜汰郎、川口 忠恭、松田 健剛、渡邊 真太郎、徳永 航、桃木 恵美子、石井 和嘉子、
森岡 一朗

(日本大学小児科)

12 歳女児。上腹部痛を主訴に受診した。血液検査で膵アミラーゼ 404 U/L と高値、腹部造影 CT 検査で限局した造影不良域を認め、造影 CT grade 2 の重症急性膵炎と診断した。MRCP を含む画像検査で膵・胆道系に器質的異常を認めなかった。問診により、半年前から意図的な食事制限で体重が約 10 kg 減少していたことが判明し、神経性やせ症と診断した。神経性やせ症では経過中に急性膵炎を発症しうる。

○指定発言 渡邊 揚介 (日本大学医学部 外科学系小児外科学分野)

感染症だより 15：40－15：55（講演：15分）

講師 高梨 さやか（国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 予防接種研究部）

共催セミナー 15：55－16：35（講演：40分）

「アトピー性皮膚炎の寛解とは？患者ごとの治療目標や病態を考えた全身治療の適応と課題」

座長 今井 孝成（昭和医科大学医学部 小児科学講座）

講師 藤田 雄治（獨協医科大学医学部 小児科学）

アトピー性皮膚炎（AD）はかゆみや睡眠障害など様々な症状をもたらすが、患者ごとによって困っている症状は異なる。皮疹の重症度のみではなく、患者が重要視している自覚症状を理解し、患者ごとに治療目標を考えていくことが大切である。またADは多くの小児科医が経験する common なアレルギー疾患であるが、近年の全身治療の登場により複雑化してきている。患者ごとの治療目標や病態を考えた全身治療の適応と課題に関して概説する。

共催：マルホ株式会社

* * 休 憩 16：35－16：45 * *

教育講演 16：45－17：50（講演：60分＋質疑応答：5分）専門医共通講習（医療安全）1単位

「医薬品副作用被害救済制度と適正使用について」

座長 阿部 祥英（昭和医科大学江東豊洲病院 こどもセンター）

講師 中林 哲夫（独立行政法人医薬品医療機器総合機構 健康被害救済部）

薬物療法は、中心的な治療法の1つである。医薬品には、効果と副作用があり、最大限の努力にも関わらず、副作用による健康被害が発現することがある。本邦には医薬品副作用被害救済制度があり、医薬品を適正に使用したにもかかわらず、副作用により重篤な健康被害が発生した場合に、医療費や障害年金などの給付による迅速な救済を図ることが、当該制度の目的である。当該制度での適正使用とは、承認された効能・効果及び用法・用量、そして添付文書の使用上の注意に従った使用が基本となる。今回は、当該制度を、具体的事例を示しながら解説する。

演題募集中！

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。

【東京都地方会 HP】 <https://jpedts-tokyo.com/>



◆ 2025 年度 & 2026 年度 講話会予定（会場開催のみ） ◆

■ 2025 年度

講話会	日 程	会 場	備 考
第 713 回	2026 年 3 月 14 日（土）	アットビジネスセンター八重洲通	※演題締切

■ 2026 年度 NEW

▲ 6 月 13 日（土）の講話会会場のみ東京慈恵会医科大学内での開催となります ▲
お間違いのないようご注意ください

講話会	日 程	会 場	備 考
第 714 回	2026 年 6 月 13 日（土）	東京慈恵会医科大学 2 号館 1 階講堂 （港区西新橋 3-25-8）	※演題締切 2026 年 4 月 20 日
第 715 回	2026 年 7 月 11 日（土）	アットビジネスセンター 八重洲通	※演題締切 2026 年 5 月 20 日
第 716 回	2026 年 9 月 12 日（土）		※演題締切 2026 年 6 月 20 日
第 717 回	2026 年 10 月 10 日（土）		※演題締切 2026 年 8 月 20 日
第 718 回	2026 年 12 月 12 日（土）		※演題締切 2026 年 9 月 20 日
第 719 回	2027 年 1 月 9 日（土）		※演題締切 2026 年 11 月 20 日
第 720 回	2027 年 2 月 13 日（土）		※演題締切 2026 年 12 月 20 日
第 721 回	2027 年 3 月 13 日（土）		※演題締切 2027 年 1 月 20 日

* 4, 5, 8, 11 月は休会

※申込演題が規定数を上回った場合、さらに 1 回先になることがありますのでご了承ください。
その場合事務局よりご連絡致します。

■ 小児診療初期対応（JPLS）開催予定

日本小児科学会と東京都地方会の共催で小児診療初期対応（Japan Pediatric Life Support : JPLS）を 2025 年度は年間 3 回開催いたしました。

2026 年度は下記の通り年間 6 回の開催が予定されております。

取得単位：小児科専門医（新制度）更新単位 iii 小児科領域講習 3 単位

開催日程	会 場	申込開始時期
2026 年 6 月 7 日（日）	東京慈恵会医科大学	2026 年 2 月初旬 募集開始
2026 年 7 月 18 日（土）	慶應義塾大学	2026 年 3 月中旬 募集開始
2026 年 9 月 5 日（土）	帝京大学	2026 年 5 月初旬 募集開始
2026 年 12 月 6 日（日）	日本大学	2026 年 8 月初旬 募集開始
2027 年 1 月 24 日（日）	東京大学	2026 年 9 月下旬 募集開始
2027 年 2 月 7 日（日）	国立成育医療研究センター	2026 年 10 月初旬 募集開始

募集人数：12 名 ※ 最少催行人数 8 名

申し込み先：日本小児科学会 HP ※詳細についても小児科学会 HP にてご確認ください

https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=221

◆ 会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ ◆

【2025 年会費納入について】

2024 年度より年会費が 8,000 円となっております。

年会費納入のお知らせをメールおよびホームページにてご案内しております。

2025 年度会費及び 2024 年度・2023 年度 会費未納の方は【会員マイページ】より納入手続きいただきますようお願いいたします。

* 3 年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。

* 会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きをお願いいたします。

* 講話会当日、会場受付にて年会費をお支払いいただくことも可能です。お気軽にお声かけください。

【年会費免除申請について】

学部学生（大学院生は除く）および、初期臨床研修医は年会費および講話会会場費は免除とします。

学部学生は学生証、初期臨床研修医は職員証（写）と年会費免除申請書（東京都地方会ホームページよりダウンロード可）を事務局に申請してください。

【東京都地方会名誉会員のご推薦について】

東京都地方会では名誉会員の推薦を随時募集しています。詳しくは東京都地方会ホームページにてご確認をお願いいたします。

ご不明な点がございましたら運営事務局までご連絡をお願いいたします。

【主幹校（会長校）】 昭和医科大学医学部小児科

【運営事務局】 日本大学医学部小児科

【主幹校／運営事務局 共通アドレス】

✉ jpstokyo-office@umin.ac.jp

【東京都地方会 HP】

<https://jpeds-tokyo.com/>

